

元気に登校し、楽しく学び、生き生きと活動する生徒の育成
～好ましい人間関係をつくるための学級づくりや学習指導の工夫を通して～

鹿児島市立谷山中学校

1 主題設定の理由

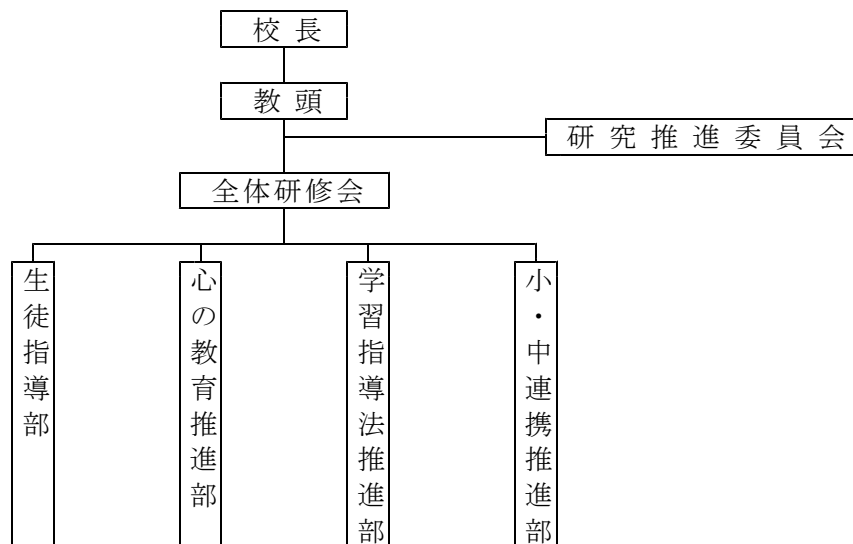
科学技術の進歩や社会・経済の急激な変化は生徒を取り巻く社会環境にも大きな変化をもたらし、人間関係の希薄化や人を思いやる心などの欠如が言われている。このように著しく変化していく現代社会において、生涯にわたり「生きる力」を培うためには、社会の変化に柔軟に対応できる能力や周囲の人との好ましい人間関係づくりを構築していくための「コミュニケーション能力」・「表現力」を身に付けさせる必要がある。

現在、本校は現在落ち着いた雰囲気の中かで授業や学校行事・部活動・生徒会活動等が行われほとんどの生徒が学校生活を楽しく送っている。しかし「学校に来られない」「学校に来ない」いわゆる不登校生徒や不登校傾向の生徒がおり、この生徒への対応が学校教育の大きな課題の一つとなっている。

そこで生徒が自主的に学び、または学び合う授業を展開する中で、教師と生徒及び生徒相互が人間的な心を深め、学ぶ喜びを味わうことが新たな不登校生徒を出さないことや不登校傾向の生徒及び保護者への効果的な支援となっていくと考える。また小学校から継続した不登校生徒やいわゆる中1ギャップから不登校に陥る生徒がいることから小学校との連携を更に深め、相互に情報を共有することも教育課題の解決につながるものと考え、研究を進めていくことにした。

2 研究組織と研究内容

<研究組織>



<研究内容>

- (1) 新たな不登校を出さないための取組・・・生徒指導部
- (2) 不登校生徒及び不登校傾向の生徒、保護者への支援・・・心の教育推進部
- (3) 好ましい人間関係づくりの学習指導法の工夫・・・学習指導法推進部
- (4) 中1ギャップ解消のための取組・・・小中連携推進部

3 研究の実際

(1) 新たな不登校を出さないための取組・・・生徒指導部

ア 積極的な生徒指導の推進

- (ア) 1学期の不登校, 不登校傾向生徒の実態把握
- (イ) 家庭における不登校, 不登校傾向生徒の状況把握
- (ウ) 2学期の生徒の様子や登校状況の把握
- (エ) 生徒の人間関係に関する情報交換

イ 安心して生活できる学級集団づくり

- (ア) 行事への取組を通じた学級集団づくり
 - ・ 1学期: 修学旅行・集団宿泊学習・音楽コンクール など
 - ・ 2学期: 体育大会・文化祭 など
- (イ) 落ち着いた雰囲気での学級・学校

ウ 問題行動, いじめ等への対応

(2) 不登校生徒及び不登校傾向の生徒, 保護者への支援・・・心の教育推進部

ア 担任を中心とした支援チームの効果的な運用

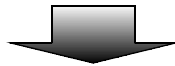
- (ア) 学年での支援チームの役割分担の再確認, 連携
- (イ) 「サポート day」の継続的な取組

イ 心の教室保護者会の定期的な実施

ウ FS (谷山・南・鴨池), SC, SSWとの連携

(3) 好ましい人間関係づくりの学習指導法の工夫・・・学習指導法推進部

学習指導を行う中で, 好ましい人間関係 (学び合い, 助け合い) をどう築いていくか。



ア 授業の組み立て

- (ア) 学習形態の工夫 → グループ学習, ペア学習, 助け合い学習など
(教科の特性や指導内容に合わせた授業形態)
- (イ) 表現力やコミュニケーション能力の育成
 - 発表の仕方, 発表の場の工夫 (個人, グループなど)
 - 発表を聞く態度の育成
 - 調べ学習や作品制作への取組

イ 生徒の変容の見方 → 授業に関する生徒の感想, アンケートの実施 教科担任による生徒の様子を観察

(4) 中1ギャップ解消のための取組・・・小中連携推進部

ア 定期的な小・中連絡会の実施 → 不登校・不登校傾向の生徒に関する情報交換

(中学校で不登校・不登校傾向になった場合に小学校との連携)

イ 今年度は6月に小・中連携研修会を開催し, 生徒指導・学習指導の両面での情報交換

ウ 入学説明会の工夫

エ アンケートの実施, 分析

4 課題等

(1) 新たな不登校を出さないための取組

- ア 生徒数が多く、各学年部での対応になり、不登校生徒、不登校傾向の生徒の状況把握が難しいが、毎週開催される生徒指導委員会で報告している。
- イ 生徒の人間関係によるトラブルが深刻にならないように迅速な解決に努める。
- ウ 行事への取組を通じた学級集団づくりを行いながら楽しく努力していけるようにしている。
- エ 落ち着いた雰囲気の中で一人ひとりが安心して生活できるようにしている。
- オ 問題行動の早期発見、早期対応に努める。
- カ いじめ等の早期発見のためにアンケート、教育相談等を行い、実態把握・対応を行っている。
- キ 谷山中サポート会議等で不登校状況の実態を知ってもらい、地域との連携を図る。

(2) 不登校生徒及び不登校傾向の生徒、保護者への支援

- ア 担任を中心とした支援チームの構成を確認し、チームで連携が取れるようにしていく。
- イ 一人ひとりの状況、実態を把握し、どのような支援がその生徒にとって効果的かをチームで検討する時間の確保が難しい。
- ウ 不登校生徒の保護者を対象に「心の教室保護者会」を定期的実施しているが、少しでも多く参加できるように工夫していく。
- エ 連絡、連携の取りづらい家庭にどのようにアプローチしていくか。

(3) 好ましい人間関係づくりの学習指導法の工夫

- ア 学習形態（グループ学習、ペア学習、助け合い学習など）を工夫し、教科の特性や指導内容に合わせた授業を取り入れていく。
- イ 表現力やコミュニケーション能力を育成するため、個人やグループでの発表の仕方、発表の場の工夫や発表を聞く態度の育成、教科の特性や指導内容に応じた調べ学習や作品制作への取組をさせていく。
- ウ 上記の内容を取り入れた実証（研究）授業を各教科で実施していく。

(4) 中1ギャップ解消のための取組

- ア 小中連携研修会や入学説明会などの内容の検討、工夫をしていく。
- イ 定期的な小中連携情報交換会を実施していく。
- ウ 新入生の情報提供の内容を検討・工夫していく。